第２回　地方創生・人口減少対策有識者会議　会議録

日時　　令和２年１１月１２日　１３時３０分から１５時３０分まで

出席者　　堤委員長　嶋津副委員長　今村委員　黒木委員

　　前川委員　佐藤委員　花石委員

会議内容

項目	内容
２⑴報告事項 イ基本目標及び数値目標について	◆基本目標Ｉについて 《質疑》 ・基本目標Ｉ及びⅢに記載されている「多様な主体」とは →若者、高齢者、障がい者、女性、子育て世代の方などを想定 《意見》 ・基本目標Ｉの数値目標２に「新たな企業や商店が増えている」とあるが、コロナウイルスの影響を受け継続困難な事業者が多い中で事業継続に焦点を当てた指標にしてもよいのでは ・数値目標は「新規起業数」など実測できる数値にしてはどうか ◆基本目標及び数値目標全般について ・アンケートはあくまで住民の感覚であること、回答してくれるのはごく一部であり、高齢者が多く、比較的田川市に住むことに満足をしている人に偏るということを念頭に置くべきである ・アンケートを、ターゲットに絞って行ってはどうか 例）就労に関するアンケートは、ハローワーク利用者等に、子育てに関するアンケートは子育て支援センター利用者に行う等 ◆事務局の意見 アンケート実施方法に関しては、第１回会議で了承を得たところであるが、２年に１回はオンラインでアンケートを行うことで

<table>
<tr><td></td><td>高齢者以外の意見も聴取できるようになると考えている。ターゲットを絞ることについては、検討する。</td></tr>
<tr><td>⑵議題
ア基本目標の数値目標について</td><td>◆基本目標Ⅰの数値目標「求職者が就職しやすい…」について
・目標として低すぎるのではないか。
・第６次総合計画との整合性の必要性という視点は理解できるが、総合戦略として挑戦する目標を設定してもよいのでは</td></tr>
<tr><td>イ具体的事業の選定について</td><td>◆追加するものとして事務局に検討してほしい事業
<table>
<tr><td>基本目標Ⅰ</td><td>・事業継続、商店街振興などの事業
・生活困窮者自立支援事業
・生活保護受給手前の人達に対する就労支援事業、就労訓練、就労準備支援
・パッケージツアーの誘致事業</td></tr>
<tr><td>基本目標Ⅱ</td><td>・観光情報発信 SNS→田川市のファンづくり</td></tr>
<tr><td>基本目標Ⅲ</td><td>意見なし</td></tr>
<tr><td>基本目標Ⅳ</td><td>・バリアフリー整備に係る事業</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>ウ政策パッケージの KPI</td><td>◆追加するものとして事務局に検討してほしい事業
<table>
<tr><td>基本目標Ⅰ</td><td>③企業誘致・育成及び創業支援
・「創業スクール受講後」などの条件を限定せず起業、創業した人数全般</td></tr>
<tr><td>基本目標Ⅱ</td><td>①関係人口・交流人口
・連続講座のような複数回のイベントを実施し、継続的に参加している人の数
・誘致した修学旅行の件数
・後藤寺駅前開発のワークショップ参加者数
・いいかねパレット利用者数
・オリパラの地域外のボランティア数
・②にあがっている国際感覚を高める…は①に入れては</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>基本目標Ⅲ</td><td>①結婚・出産・子育てに対する支援
・合計特殊出生率
※独自の計算を行う必要があり、変動が大きいため指標にあまり適切でないとの事務局見解
②多様な取組による学力の向上
・学校の授業が分かる生徒の割合
・学校が楽しい生徒の割合
・地域連携した外部講師の招へい回数</td></tr>
<tr><td>基本目標Ⅳ</td><td>①市民参加のまちづくりの推進
・自治会加入率は前回の会議で不適切との話ではなかったか
③誰もが住み慣れた地域で暮らしていけるまちづくり
・困難さを抱える人の相談件数（ＤＶ、人権、就職、障がいなど）の相談窓口が機能しているかを測る指標
⑤持続可能な社会の実現
・SDGｓの認知度・浸透度
・SDGｓの視点からパートナーシップに関するもの</td></tr>
</table>

◆ＫＰＩ全般について検討してほしい事項
・横断的な目標として、多様な人材の活躍という項目があるため、各事業において特に女性の活躍などの視点を盛り込んでほしい
・「多様な主体」との記載でなく「女性」「障がい者」「高齢者」など、ターゲットを絞った目標設定を行ってはどうか</td></tr>
</table>